

7～9月期の業況はわずかに改善

【特別調査】 - 「消費税率引上げの影響と対応について」

【調査要領】

調査時点：2019年9月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査企業数：102社
 調査票回収：102社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

(例)

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	102

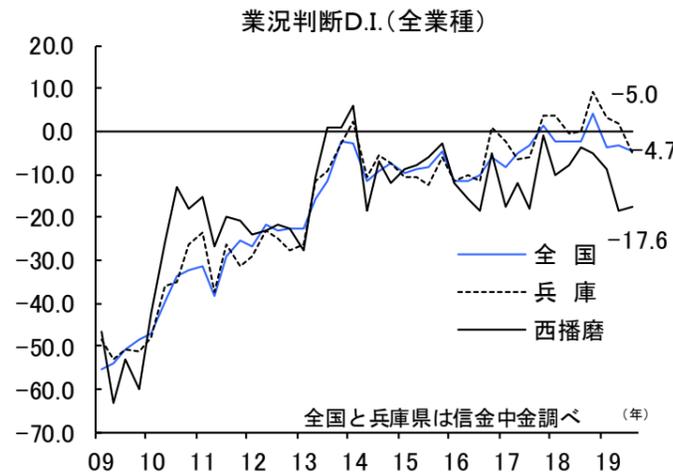
全業種総合

～景況感はわずかに改善～

19年7～9月期（今期）の業況判断 D.I.は△17.6 と、前期比 1.0 ポイント改善した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業の割合が 1.9 ポイント改善した一方、「悪い」と回答した企業の割合が 0.9 ポイント上昇したことによる。

前年同期比の売上額判断 D.I.は△19.6 と前期比 19.6 ポイント低下し、同収益判断 D.I.は△19.6 と前期比 13.7 ポイント低下した。

業種別の業況判断 D.I.は、サービス業・建設業で改善し、製造業・卸売業で低下した。小売業・不動産業は横ばいであった。



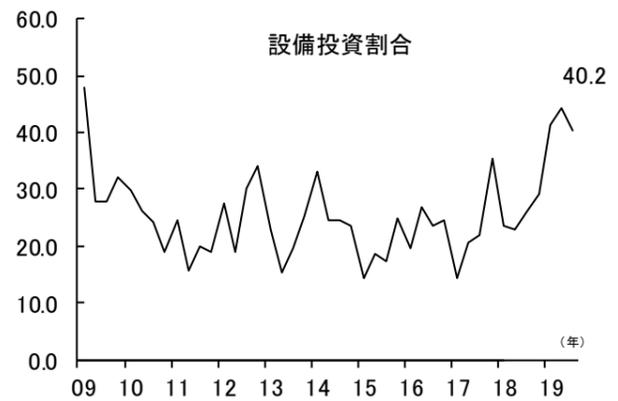
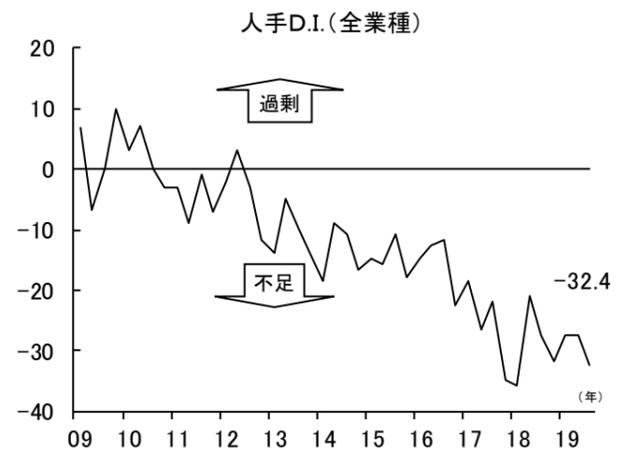
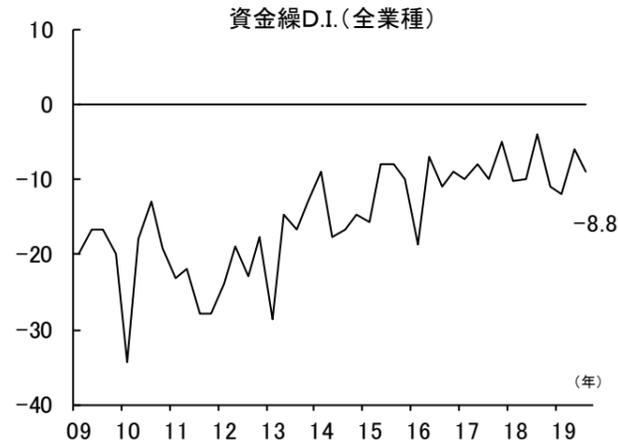
【業種別天気図】

過去4四半期の業況判断 D.I.を平均して判定

時期	2019年 4～6月	2019年 7～9月	2019年 10～12月 (見通し)
業種名			
総合	晴れ	晴れ	晴れ
製造業	晴れ	晴れ	晴れ
卸売業	曇り	曇り	曇り
小売業	曇り	曇り	曇り
サービス業	晴れ	晴れ	晴れ
建設業	晴れ	晴れ	晴れ
不動産業	晴れ	晴れ	晴れ

天気図の凡例：快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨

好調 ← → 低調



～販売価格判断 D.I.はわずかに改善・仕入価格判断 D.I.は低下～

販売価格判断 D.I.は 1.0 と、前期比 1.0 ポイント改善した。仕入価格判断 D.I.は、13.7 と前期比 13.8 ポイント低下した。

～資金繰判断 D.I.は低下～

資金繰判断 D.I.は△8.8 と、前期比 2.9 ポイント低下した。業種別では、卸売業が前期比 18.2 ポイント、小売業が同 11.8 ポイント、サービス業が同 10.6 ポイント改善した。一方、製造業が前期比 21.9 ポイント、建設業が同 5.6 ポイント、不動産業が同 20.0 ポイント低下した。

～人手過不足判断 D.I.は、人手「不足」感が強まった～

雇用面では、人手過不足判断 D.I.が△32.4（マイナスは人手「不足」超）と前期比 4.9 ポイント低下した。残業時間判断 D.I.は△5.9 と、前期比 3.9 ポイント上昇した。残業時間が「増加」したとする企業の割合が増加したことによる。

～設備投資実施企業割合は低下～

設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は 40.2%と、前期比 4.1 ポイント低下した。

～来期の景況感は今期実績比わずかに改善する見通し～

来期の予想業況判断 D.I.は△16.7 と今期実績比 0.9 ポイント改善する見通しとなっている。

業種別の予想業況判断 D.I.は、卸売業が今期実績比 27.3 ポイント改善する見通しである。一方、小売業が今期実績比 5.8 ポイント、建設業が同 5.6 ポイントがそれぞれ低下する見通しである。製造業・サービス業・不動産業は横ばいの見通しである。

<経営上の問題点>

経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が 42%、「人手不足」が 35%、「利幅の縮小」が 27%「同業者間の競争の激化」が 24%、と多く、その他では「人件費の増加」が 17%となっている。

<当面の重点経営施策>

当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が 50%、「販路を広げる」が 42%、「人材を確保する」が 34%と多く、その他では「情報力を強化する」が 9%、「機械化を推進する」が 9%、「教育訓練を強化する」が 8%となっている。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	42%
2位	人手不足	35%
3位	利幅の縮小	27%
4位	同業者間の競争の激化	24%
5位	人件費の増加	17%

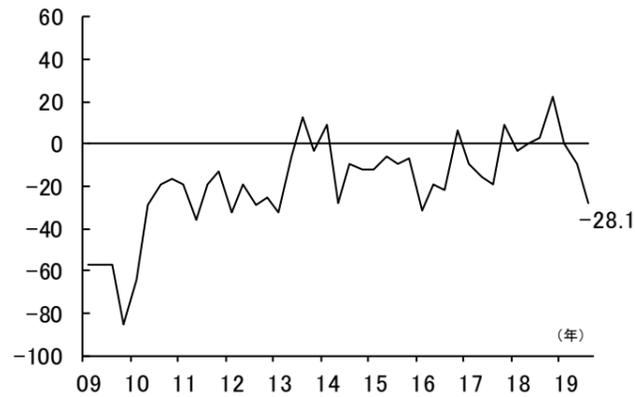
当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	50%
2位	販路を広げる	42%
3位	人材を確保する	34%
4位	情報力を強化する	9%
4位	機械化を推進する	9%
6位	教育訓練を強化する	8%

※2009年12月期までは、信金中金が「全国中小企業景気動向調査」として実施している当金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 28.1$ と、前期比 18.7 ポイント低下した。

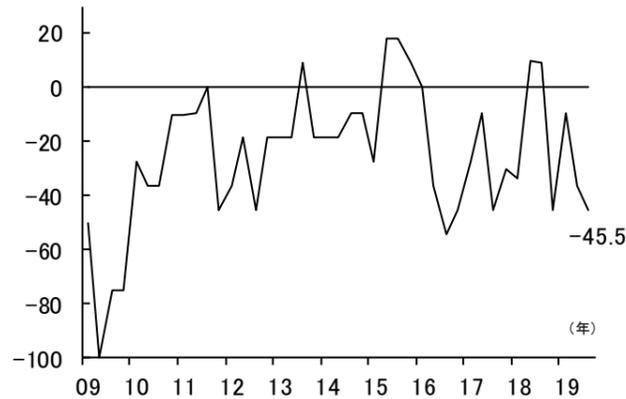
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 18.8$ と、前期比 37.6 ポイント、同収益判断 D.I.は $\Delta 21.9$ と、前期比 25.0 ポイントそれぞれ低下した。

設備投資実施企業割合は 31.3%と、前期に比べて 3.2 ポイント改善した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 12.5$ と、前期比 21.9 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 25.0$ (前期は $\Delta 18.8$)と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 28.1$ と今期実績比横ばいを見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 45.5$ と、前期比 9.1 ポイント低下した。

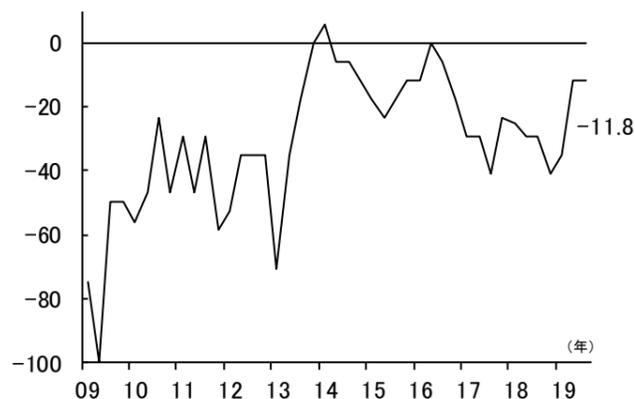
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 36.4$ と 18.2 ポイントの低下となり、同収益判断 D.I.は $\Delta 45.5$ と、前期比 36.4 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は 9.1 と、前期比 18.2 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 18.2$ (前期も $\Delta 18.2$)と人手不足感は横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 18.2$ と、今期実績比 27.3 ポイント改善を見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は横ばい～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 11.8$ と前期比横ばいであった。

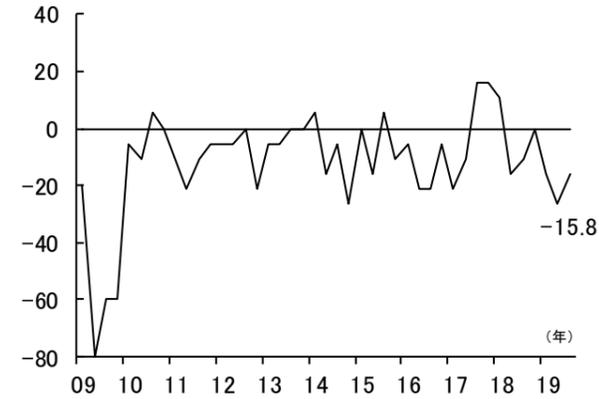
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と、前期比 35.3 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 5.9$ と、前期比 5.9 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 17.6$ と、前期比 11.8 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 29.4$ (前期は $\Delta 23.5$)と人手不足感は強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 17.6$ と、今期実績比 5.8 ポイント低下を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と、前期比 10.5 ポイント改善した。

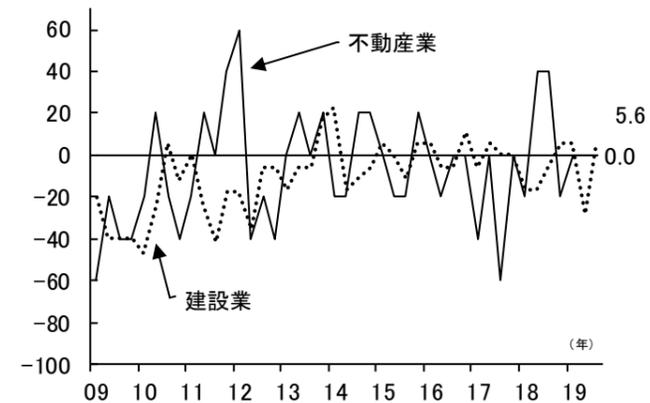
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 31.6$ と、前期比 $\Delta 26.3$ ポイント、同収益判断 D.I.は $\Delta 36.8$ と、前期比 21.0 ポイントそれぞれ低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 10.6 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 36.8$ (前期は $\Delta 36.8$)と人手不足感は横ばいであった。残業時間判断 D.I.は 21.1 と、前期比 21.1 ポイント上昇した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は改善～

今期の建設業の業況判断 D.I.は 5.6 と前期比 33.4 ポイント改善した。前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と、前期比 27.8 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は 0.0 と、前期比 22.2 ポイント改善した。受注残判断 D.I.は 0.0 と、前期比 27.8 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は 0.0 と、前期比 5.6 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 50.0$ (前期 $\Delta 38.9$)と、前期比 11.1 ポイント低下し、人手不足感は強まった。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 5.6 ポイント低下を見込んでいる。

～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 0.0 と、前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.は 20.0 と前期比横ばいとなった。同収益判断 D.I.は 0.0 と、前期比 20.0 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と、前期比 20.0 ポイント低下した。在庫過不足判断 D.I.は 20.0 と、前期比 20.0 改善した。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：主力製品の売上は順調。さらなる売上増加に向けて新製品の開発を目指す。

卸売業：今年は天候不良もあり、売上減少している。人材の確保も課題。

小売業：外商部門に営業担当を増やし取引先増加に努めている。

サービス業：人口減少等により大きな売上増加が期待できない。キャッシュレス決済、ポイント還元で若年層の獲得を増やしたいとのこと。

建設業：土木工事の受注が多く、外注に依存しているため、利益の確保が難しくなっている。